

高江オスプレイパッド工事説明資料

【オスプレイパッド工事の問題点及び今後の動向】

- ① 防衛局の赤土流出防止対策図では、崩落している箇所反対側に道路の法線をシフトして、そのシフトする側だけの法面对策となっている。

崩落した法面は設計調査時点と比較すると現在では崩落の度合いはさらに進行していると思われる、危険性が大きいのは崩落側であり、そちら側の対策が重要である。

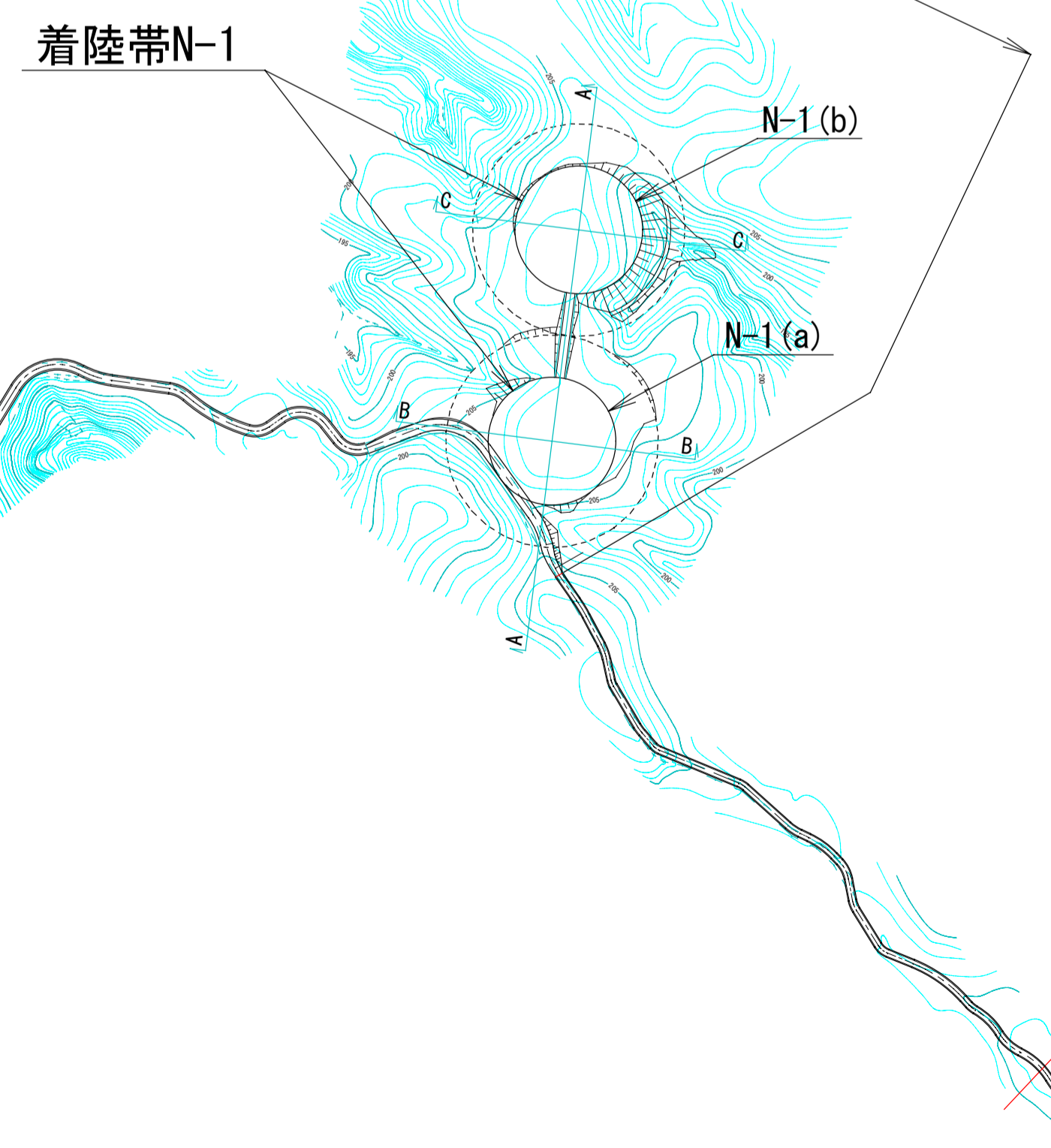
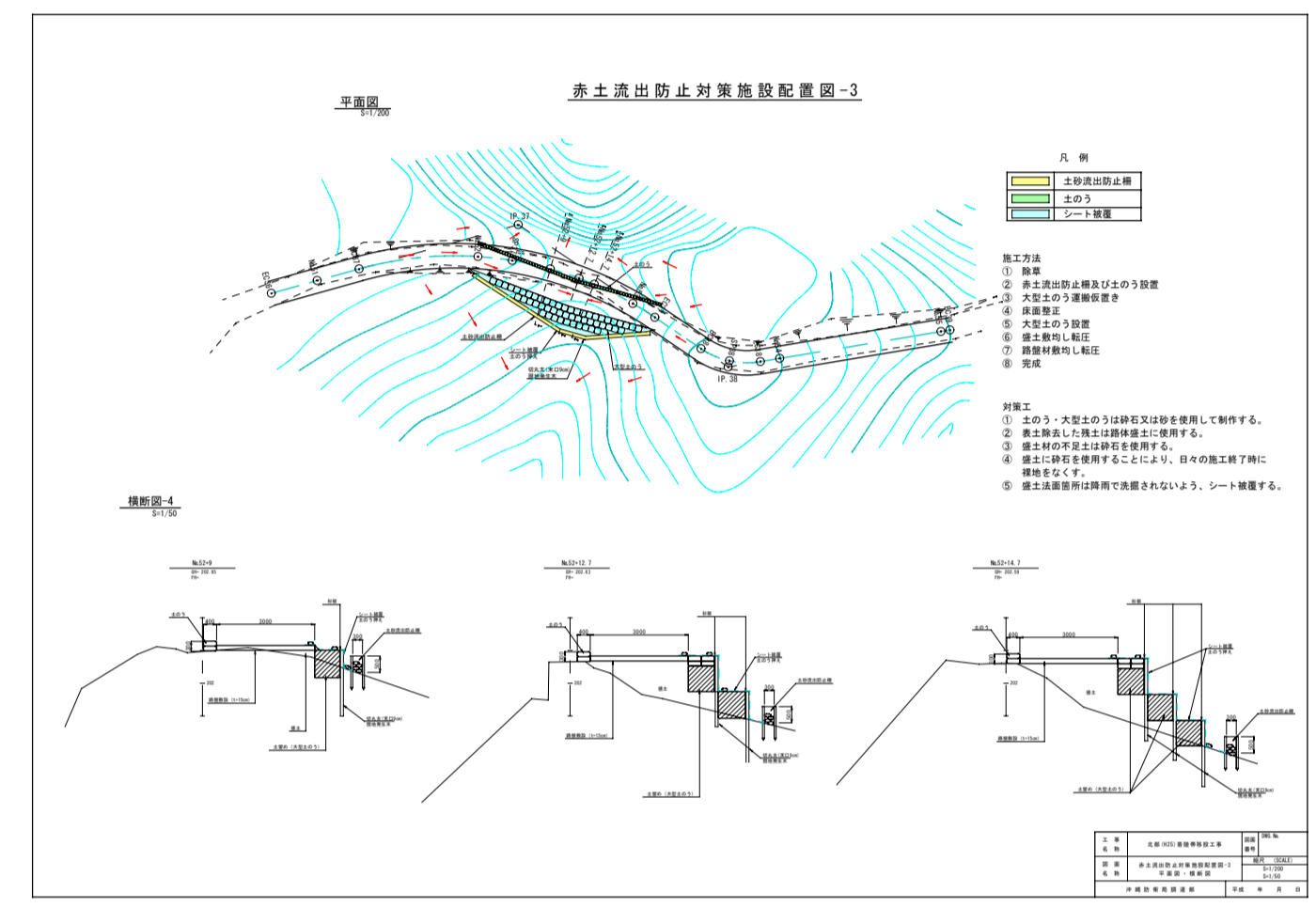
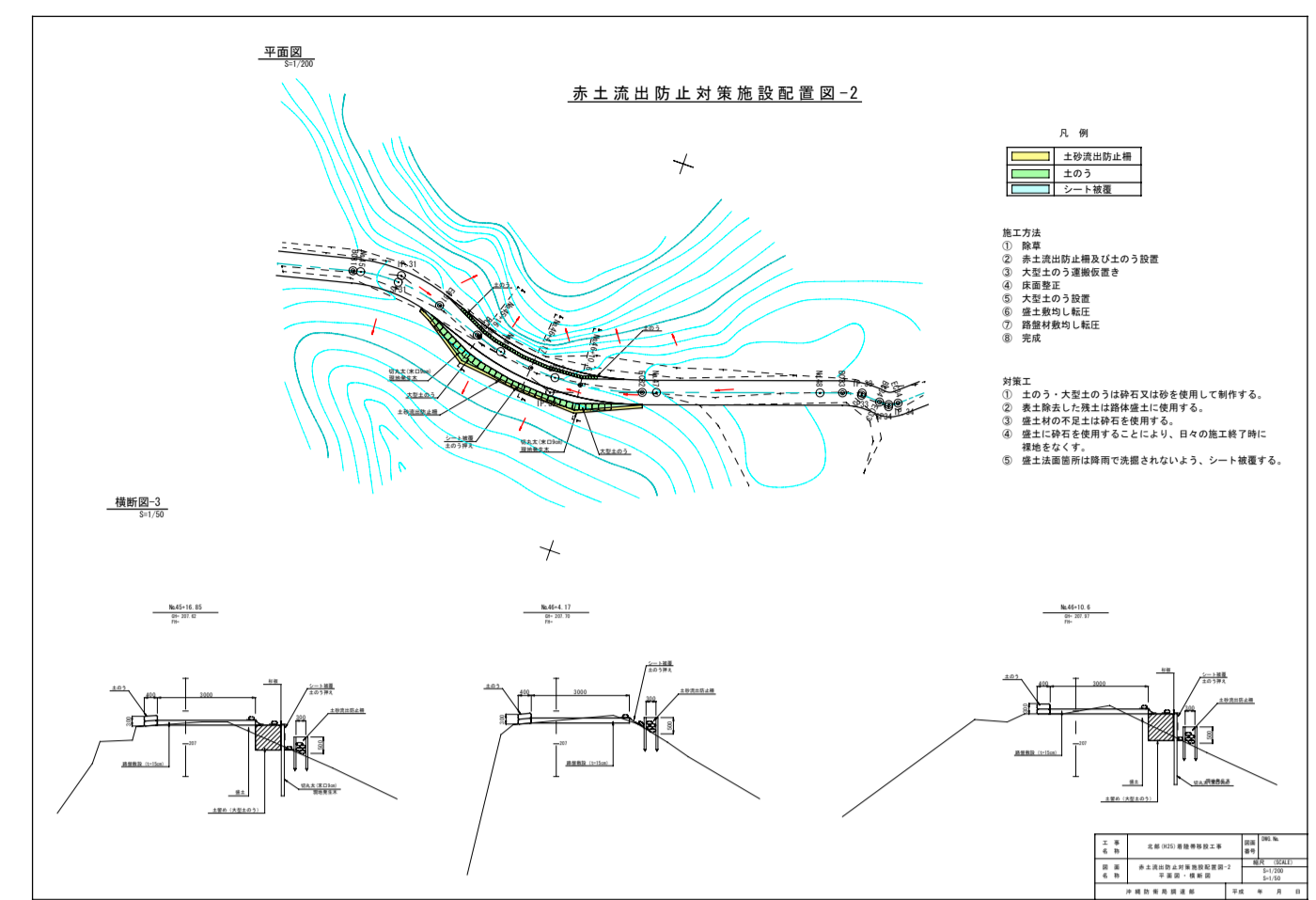
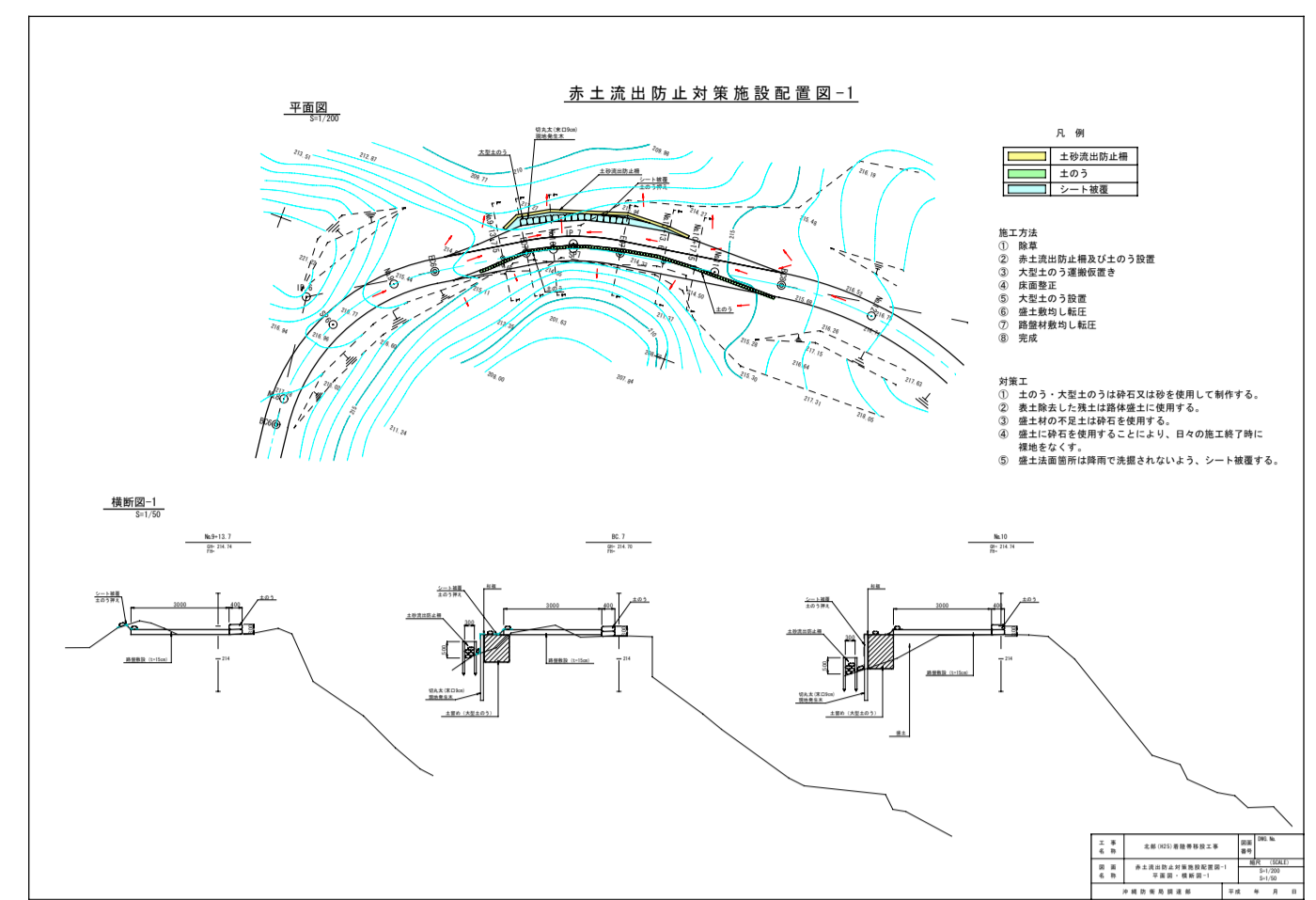
また、赤土対策の横断図からも崩落箇所の法面は傾斜角がきつことが把握できるのだが、このような状況でも防衛局側は法面对策の必要性はないと判断した根拠があるのか確認する必要がある。

そもそも崩落が発生した箇所は、周辺の区間で一番低い箇所になっており、降り注いだ雨が低い箇所に集中することにより法面を侵食し、土中に浸透した水分が蓄積され法面崩落が起こったのは明白である。

赤土流出防止条例に基づいて提出された『事業行為理由書』の対策図を、沖縄県側でも精査した時点で法面对策の不備を指摘するべきであった。
- ② 現在資材(路盤材)搬入が行われている N-1 ゲートから、県道 70 号線を約 300m 北上した地点の左側で大規模な法面崩落が発生しているように、高江周辺の地盤は降雨によって侵食されやすい地質(赤土)であり、道路がアスファルトで覆われていてもこのような災害が起っている。

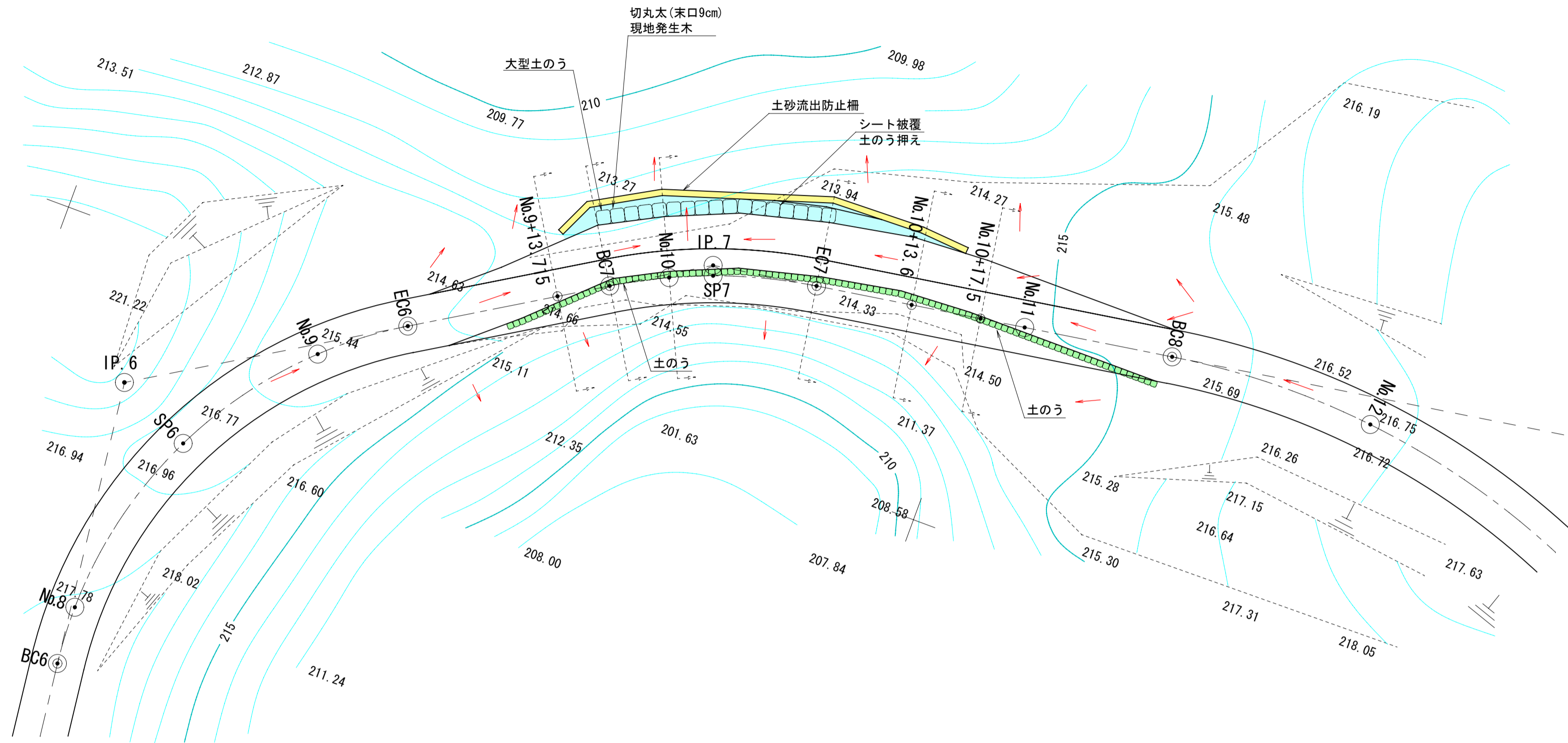
水密性の高いアスファルトで道路表面を被覆したとしても、法面对策が不備のために法面から降雨が浸透して崩落したと考えられるため、防衛局が行っている仮設道路は、路盤材のみでアスファルト舗装は計画されておらず、今の状況では路面に降り注いだ雨水は水密性の低い路盤から浸透し、路床下の含水比が上がり。さらに法面の対策が施されていないので法面側からの侵食も進み、そこへ荷を満載した工事車両が大量に通過することにより振動を与えることで地盤の支持力が低下し、斜面崩壊を誘発させ災害発生(法面崩落事故)が確実に起こることが予想される。
- ③ 防衛局は報道機関に、H、G 地区への資材搬入は工事用モノレールにて行うことを公表したことからすると、2 箇所の資材はすべて N-1 ゲートから搬入することになるため、崩落箇所を通過する運搬車両台数が増大することは確実で、明らかに設計当初とは違う目的で使用するのであれば、環境保護の観点から環境破壊につながるような工事を沖縄県としては絶対認めないという姿勢を見せるべきである。

工事用道路平面図 S=1/2000



赤土流出防止対策施設配置図-1

平面図
S=1/200



凡例

	土砂流出防止柵
	土のう
	シート被覆

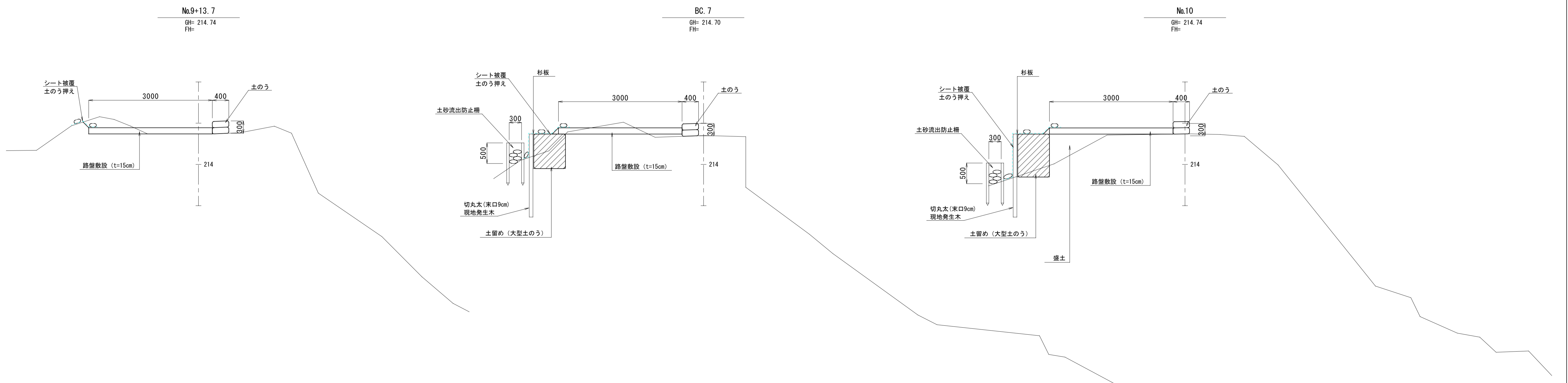
施工方法

- ① 除草
- ② 赤土流出防止柵及び土のう設置
- ③ 大型土のう運搬仮置き
- ④ 床面整正
- ⑤ 大型土のう設置
- ⑥ 盛土敷均し転圧
- ⑦ 路盤材敷均し転圧
- ⑧ 完成

対策工

- ① 土のう・大型土のうは砕石又は砂を使用して制作する。
- ② 表土除去した残土は路体盛土に使用する。
- ③ 盛土材の不足土は砕石を使用する。
- ④ 盛土に砕石を使用することにより、日々の施工終了時に裸地をなくす。
- ⑤ 盛土法面箇所は降雨で洗掘されないよう、シート被覆する。

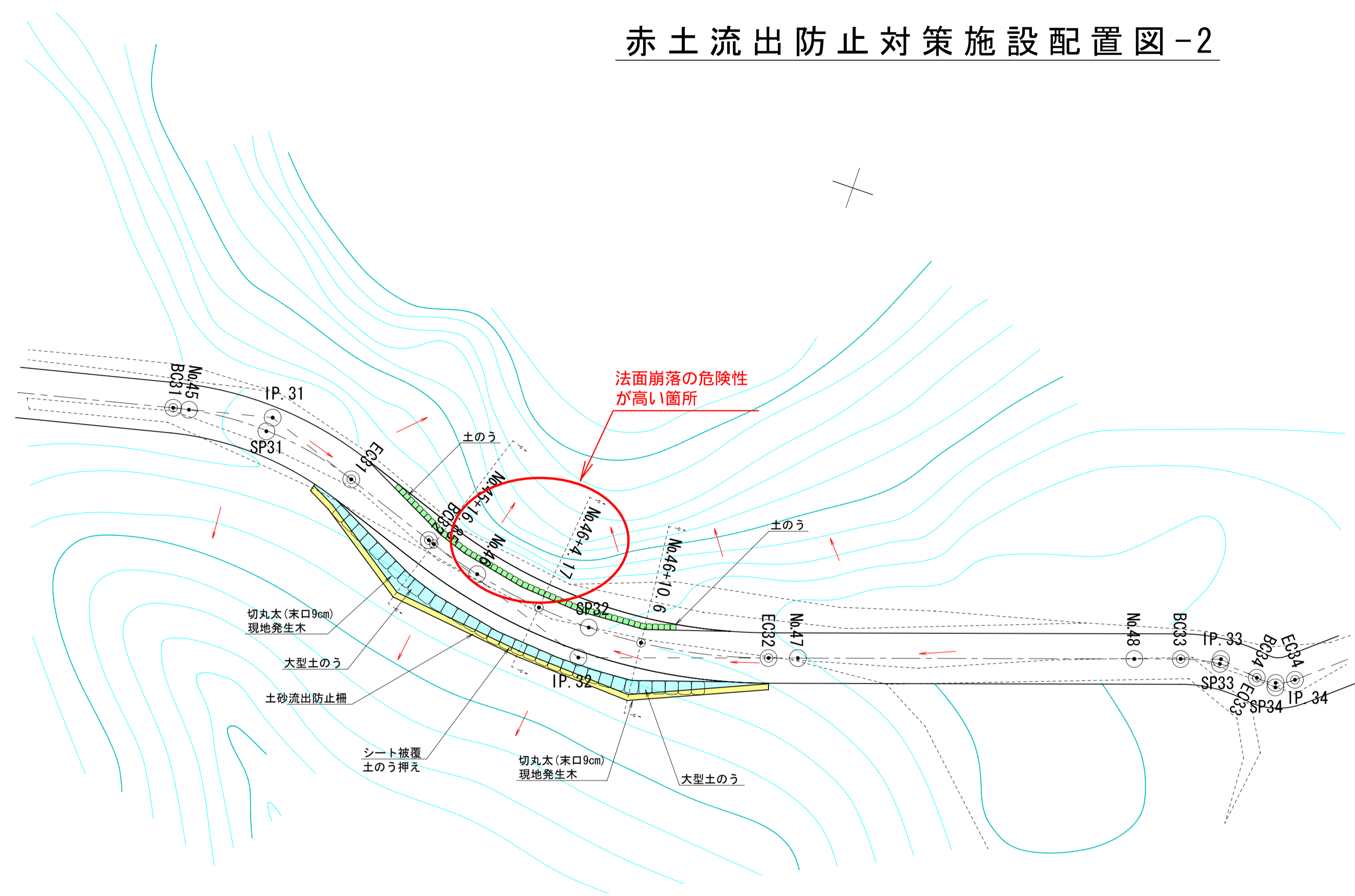
横断図-1
S=1/50



工事名称	北部(H25)着陸帯移設工事	図面番号	DWG. No.
図面名称	赤土流出防止対策施設配置図-1 平面図・横断図-1	縮尺 (SCALE)	S=1/200 S=1/50
沖縄防衛局調達部		平成 年 月 日	

平面図
S=1/200

赤土流出防止対策施設配置図-2



凡例

	土砂流出防止柵
	土のう
	シート被覆

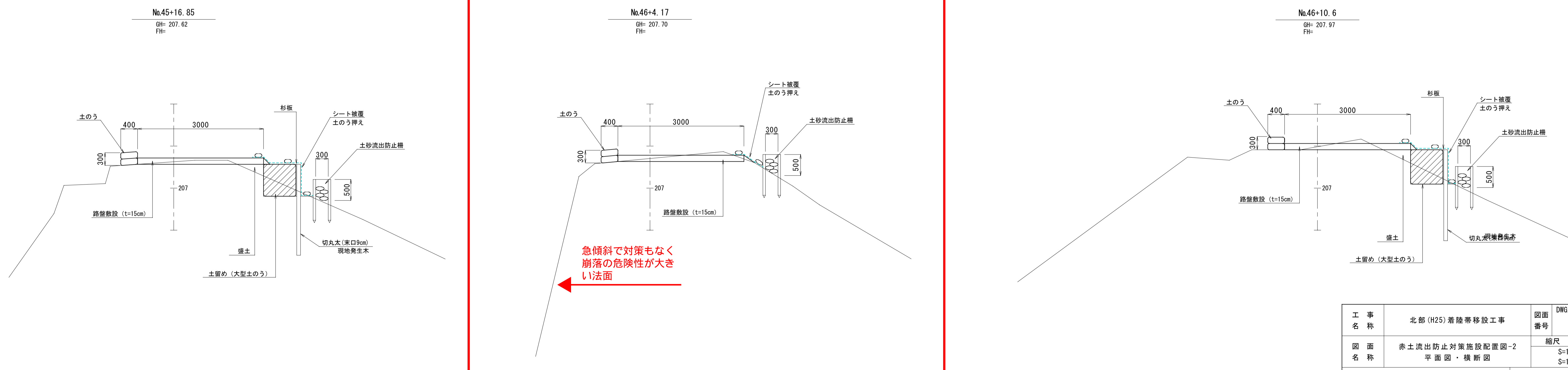
施工方法

- ① 除草
- ② 赤土流出防止柵及び土のう設置
- ③ 大型土のう運搬仮置き
- ④ 床面整正
- ⑤ 大型土のう設置
- ⑥ 盛土敷均し転圧
- ⑦ 路盤材敷均し転圧
- ⑧ 完成

対策工

- ① 土のう・大型土のうは砕石又は砂を使用して制作する。
- ② 表土除去した残土は路体盛土に使用する。
- ③ 盛土材の不足土は砕石を使用する。
- ④ 盛土に砕石を使用することにより、日々の施工終了時に裸地をなくす。
- ⑤ 盛土法面箇所は降雨で洗掘されないよう、シート被覆する。

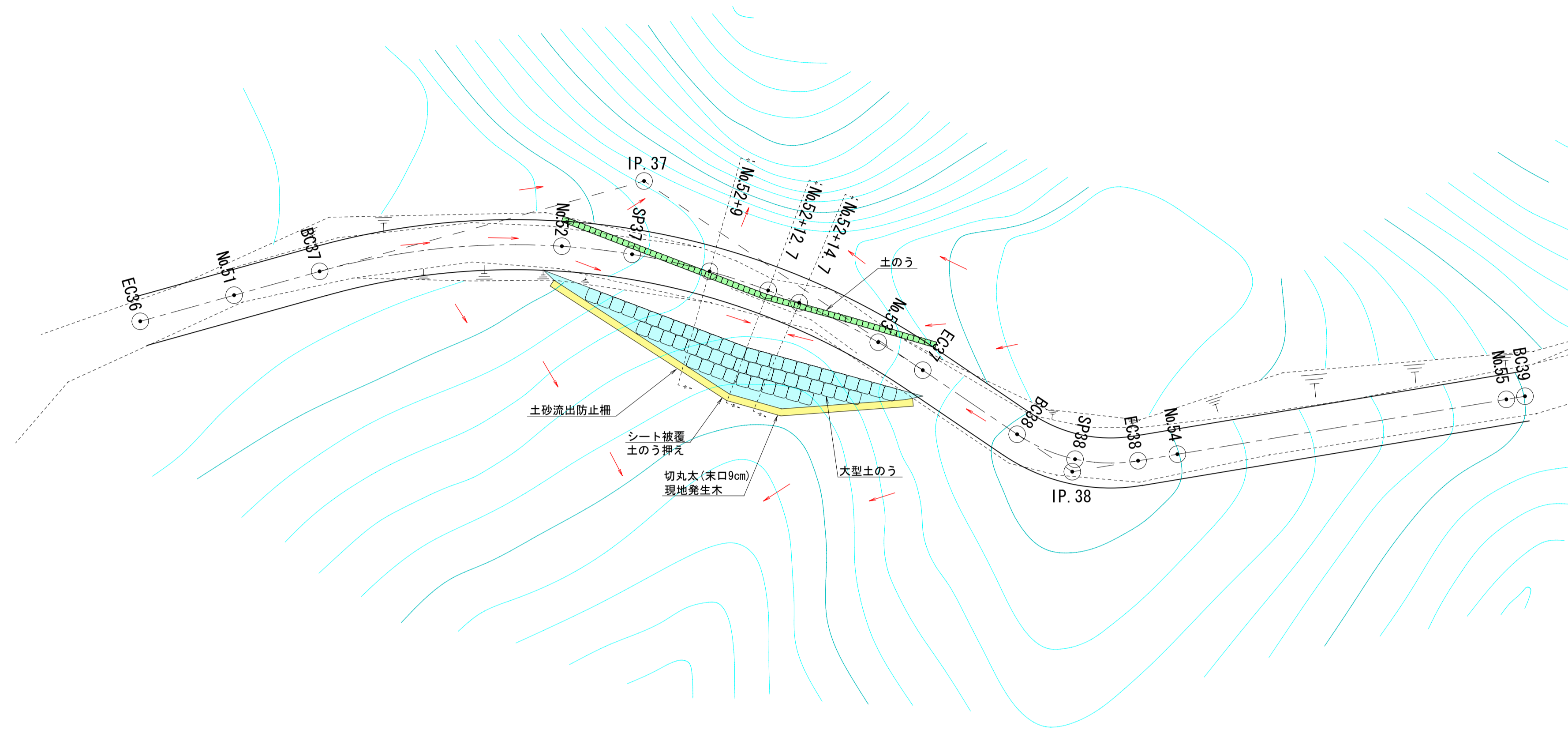
横断面図-3
S=1/50



工事名称	北部(H25)着陸帯移設工事	図面番号	DWG. No.
図面名称	赤土流出防止対策施設配置図-2 平面図・横断面図	縮尺 (SCALE)	S=1/200 S=1/50
沖縄防衛局調達部		平成 年 月 日	

赤土流出防止対策施設配置図-3

平面図
S=1/200



凡例

	土砂流出防止柵
	土のう
	シート被覆

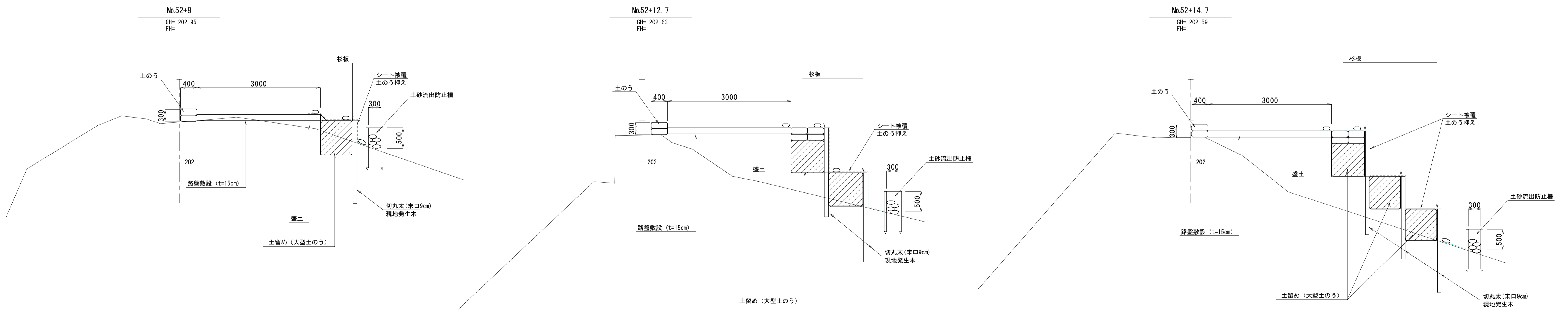
施工方法

- ① 除草
- ② 赤土流出防止柵及び土のう設置
- ③ 大型土のう運搬仮置き
- ④ 床面整正
- ⑤ 大型土のう設置
- ⑥ 盛土敷均し転圧
- ⑦ 路盤材敷均し転圧
- ⑧ 完成

対策工

- ① 土のう・大型土のうは砕石又は砂を使用して制作する。
- ② 表土除去した残土は路体盛土に使用する。
- ③ 盛土材の不足土は砕石を使用する。
- ④ 盛土に砕石を使用することにより、日々の施工終了時に裸地をなくす。
- ⑤ 盛土法面箇所は降雨で洗掘されないよう、シート被覆する。

横断面図-4
S=1/50



工事名称	北部(H25)着陸帯移設工事	図面番号	DWG. No.
図面名称	赤土流出防止対策施設配置図-3 平面図・横断面図	縮尺 (SCALE)	S=1/200 S=1/50
沖縄防衛局調達部		平成 年 月 日	